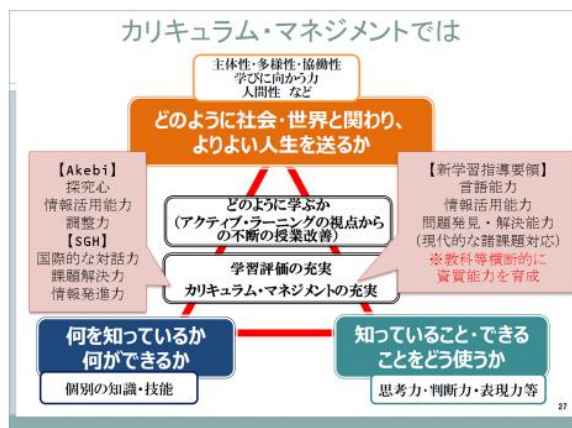


# 『主体的・対話的で深い学び』の実現を目指して

## 【校内研修】

日 時：平成 30 年 6 月 7 日（木）  
講 師：北海道登別明日中等教育学校  
教頭 田 中 君 枝  
テーマ：主体的・対話的で深い学びの実現を目指して  
協 議：昨年度の振り返りと今年度の授業改善に向けて  
①個人で振り返り  
a 昨年度の目標について  
b 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて教科で重点としたいこと  
②教科ごとのグループ協議  
③全体交流  
④学校長講評

## AKB Future Project 推進委員



## 人類史上「5 番目の社会」を生き抜く力の育成

田中教頭から『『主体的・対話的で深い学び』の授業づくり』が求められる背景やその視点について説明がありました。2030 年以降①狩猟社会②農耕社会③工業社会④情報社会 に続く第5の社会「超スマート社会（Society5.0）」の到来が予測されており、そのような時代を生き抜く力を育成するため高大接続改革や学習指導要領の改訂など、教育改革が進められているとのことです。

変化の激しい社会に即応した教育課程の編成・実施にむけて、知識・技能の量から思考力・判断力・表現力等の育成へ重きを置いた指導の改善・充実が求められていることについて全体で共通理解を図りました。

## カリキュラム・マネジメントの視点

育てたい資質・能力が育成されたかという視点で、教育課程を評価し、教育活動の改善・充実へつなげることが求められており、本校では、昨年度策定した「グランドデザイン」にある「身に付けさせたい資質・能力」が身に付いたかという点で評価し、教育課程の改善・充実を図り、日々の授業改善等に生かすことが重要であることも話題となりました。授業改善については、新学習指導要領を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づき、それぞれの生徒の学び（色）を深める関わり方を意識して、不断に取り組むことが大切であることが確認されました。

## 『主体的・対話的で深い学び』の実現を目指して

説明のあとは、教科ごとに、『主体的・対話的で深い学び』の実現を目指して、今年度重点としたいこと※などについて協議しました。

最後に校長先生から、アセスメントの観点における学校全体の教育活動に対するC（評価）とI（改善）の重要性と、それらを通して本校の様々な取組（トンネル）をつなげていく視点などについて、話があり今年度の授業改善に向けた取組がいよいよスタートしました。

## 【今年度重点としたいこと※】

**国語科** 年次、単元、他教科とのつながりを意識する。具体的・実用的な国語から抽象的・概念的国語へ。主体的に学ぶ人はかっこいいという意識を持たせる。

**地歴・公民科** 短い時間での教え合いや、知識の注入をしつつ、授業の中で考えさせる工夫など

**数学科** 単元シラバスを活用し、日常とつながる学習を通じた深い学びなど

**理科** 学んだ概念を用いて自然現象を人に説明する訓練など

**芸術科** 話し合いと作品交流を効果的に取り入れ、表現に結び付く実践など

**保健体育科** ICTの活用やルーブリックを活用した授業展開など

**英語科** プレゼン等の評価に使っている英語科ルーブリックの活用・検証・改善など